

町田市基本構想・基本計画「まちだ未来づくりビジョン2040」の策定について

上記の議案を提出する。

令和3年(2021年)6月7日

提出者 町田市長 石 阪 丈 一

町田市基本構想・基本計画「まちだ未来づくりビジョン2040」の策定について

町田市基本構想・基本計画「まちだ未来づくりビジョン2040」を次のとおり策定する。

まちだ未来づくりビジョン2040

## 1 はじめに

### (1) まちだ未来づくりビジョン2040の期間

基本構想部分を担う「2040なりたい未来」は、2022年度から2039年度までの18年間、基本計画部分を担う「まちづくり基本目標」及び「経営基本方針」は、2022年度から2031年度までの10年間と、2032年度から2039年度までの8年間とします。

## 2 基本構想

### (1) 2040年の町田市のイメージ

町田市は、2040年に向けたまちづくりの方向性となりたいまちの姿、行政経営の方向性と行政経営の姿をそれぞれ明らかにし、それらからイメージされる未来の町田を一言で表すキャッチコピーを以下のとおり決めました。

なんだ かんた まちだ

「なんだかんた言っても、やっぱり町田が一番」、この感覚は、町田で暮らす子どもから高齢者、また、町田を拠点に活動する事業者や団体など、町田市に関わった方の多くが抱くものです。

自分や家族が成長していく場所として、仕事や遊び、学びに励む場所として、一息つく場所として、知らず知らずのうちに町田を選んでいる。

これは、都市と自然のバランスのよさに加え、自由な発想や生き方を受け入れる寛容さを町田というまちが持っているからにほかなりません。

様々な理由で一度は離れたとしても、肩肘張らずに暮らせる環境を求めて、結局は町田に戻ってくるような、そんな皆に愛されるまち、ほかにはないユニークなまちのイメージを「なんだ かんだ まちだ」というキャッチコピーで表現しています。

## (2) なりたいまちの姿とまちづくりの方向性

### なりたいまちの姿1

#### ここでの成長がカタチになるまち

2040年という未来のまちの中心的な役割を担い、第一線で活躍しているのは、いまの子どもたちです。人口減少が進む中、子どもたちがずっと住み続けたいと思えることは、将来にわたり選ばれるまちの重要な要素となります。

子どもの頃の素敵な思い出は大人になっても忘れないものです。町田市は、子どもたちに様々な経験やチャレンジの機会を提供するとともに、自由で柔軟な発想を受け入れる環境を整え、まちへの誇りや愛着の醸成につなげていきます。そして、子どもたちが自分の成長を有形・無形問わず何らかのカタチとして実感し、自身の未来を描いていってほしいと願っています。

一方で、周りの大人たちが楽しく暮らしていてこそ子どもたちの健やかな成長があります。親や祖父母はもとより、普段子どもとあまり接点のないような大人たちまでもが互いに協力し合って社会全体で子育てしている、そういうことが当たり前前にできるまちならば、みんなの心に余裕が生まれ、大人だって成長していくことができるはずです。

子どもと共に成長していった先には、ここで暮らしてよかったと誰もが思えるような、それぞれにとっての幸せのカタチが生まれている、町田市はそんなまちになることを目指します。

#### まちづくりの方向性 1

子どもと共に成長し、幸せを感じることができる

人口減少という課題に直面する中、2019年度に行った調査では、町田市の希望出生率は1.91という結果が出ています。これに対して合計特殊出生率は1.24前後を推移していることから、子どもを産み育てたいと考える人たちの希望がかなっていない状態にあるといえます。

また、将来的にも人口減少が続くことが推計で示されていることから、これから先、町田市は行政サービスを提供している基礎自治体として少子化対策に取り組み、子育ての希望をかなえていく必要があります。

町田市で子どもを産み育てていきたい、また、2人目、3人目をもうけたいと思えるためには、子育てへの不安を払拭できるような、お互いを信頼でき、幸せを感じられる社会であることが求められます。様々な支援があり、ここでなら安心して子どもを産むことができる、子どもが健やかに成長していってくれるという確信が持てる社会であれば、自ずと出生数は増えていきます。

また、子どもの周りに、こうなりたいと思えるような素敵な大人がいることや、自分に関係するまちづくりに参加できること、安全・安心な環境があることなどが、子ども自身がここで育っていききたい、育ってよかったと思えることにつながり、将来の転出抑制、転入促進にもつながっていきます。

人口減少時代にあっては、このように、大人も子どもも未来への希望が持てること、このことを大事にしていく必要があります。

これから先、町田市が持続可能なまちであるためには、少子化という問題を避

けては通れません。このことに果敢に取り組む姿勢を示すとともに、町田市で生まれ育った子どもたちに次代の町田市をつくってほしいという願いを込め、「まちだ未来づくりビジョン2040」では、「子ども」を起点に、まちづくりの方向性を考えていきます。

子どもにやさしいまちは、高齢者や障がい者など、みんなにやさしいまちです。町田市は2040年に向け、親や祖父母、地域など、子どもを取り巻く様々な主体が、子どもと共に成長し幸せになっていくことができるまちづくりを進めます。

## なりたいまちの姿2

### わたしの“ココチよさ”がかなうまち

東京の郊外に位置する町田市は、個性的なお店が軒を連ねる中心市街地で買い物や食事を楽しめる一方、市の北部などには豊かな自然があり、アウトドアライフを満喫することもできます。

また、大学や専門学校等が集積した学生のまちという側面や、サッカー、フットサル、ラグビーのホームタウンチームを有するスポーツのまちという側面、国際版画美術館をはじめ、史跡や郷土芸能などを大切にする文化・芸術のまちという側面もあります。

そして、小田急線とJR横浜線が交差する交通の結節点であること、新幹線駅に程近いこと、多摩都市モノレールが延伸することなど、移動利便性が高いという利点がテレワークの普及などと相まって、市内に軸足を置きながら仕事ができる環境が整いつつあります。

このように町田市は、仕事、学び、遊びなどの拠点機能を備えており、ひとりでもみんなでも、何か行動を起こすのに最適なまちです。2040年においてもこの特性を土台に、思い思いの暮らしを描くことができる環境を提供していくとともに、昨日よりも今日、今日よりも明日と、生活の質の向上をちょっとずつで

も実感できるよう日々成長し続けていきます。

ちょっといいちょうどいい暮らしの先には、それぞれにとってのココチよさがかなえられている、町田市はそんなまちになることを目指します。

## まちづくりの方向性 2

ちょっといい環境の中で、ちょうどいい暮らしができる

2040年を見据えたとき、AIやICTに代表されるテクノロジーの更なる発展、一億総活躍社会の実現に伴う働き手の多様化など、私たちの日々の暮らしや仕事のあり方は今とは大きく異なっていることが予想されます。

時間や場所にとらわれないライフスタイルが前提となったとき、生活の拠点として町田市が選ばれていくためには、人を惹きつける価値を提供できるまちである必要があります。長く都心のベッドタウンとして人々の生活を支えてきた町田市が提供できる価値を考えたとき、それは特別な何かではなく、居心地のよさや気楽さ、ちょうどよさを感じられる日常というものなのではないでしょうか。

日常の中にあるといいちょうどよさとは、例えば、働くということにおいてであれば、サテライトオフィスやコワーキングスペースなど、近くに働ける場所やビジネスパートナーを見つけられる場所がある、どこかへ出向く際は快適に移動できる交通基盤がある、仕事帰りに買い物や食事を楽しめる魅力的なお店があるなど、ちょっといい環境があるということが挙げられるかと思います。

一方、働き方の変化によってもたらされる仕事以外の時間、言うなれば自分の時間をどのように充実させるかということも非常に重要です。この点では、みどりを身近に感じることができる、各地域で面白いイベントがたくさんある、誰かのために活動する機会を得ることができる、それらへの交通アクセスが充実しているなど、暮らしを豊かにする物事が周りにたくさんあり、また、それを思い立ったときにすぐ実行できる、ちょうどよく手に入るということが大事になってき

ます。

都心から程近く、都市機能と自然環境が共存し、広域交通にも恵まれている町田市は、仕事の時間や自分の時間の過ごし方の選択肢がたくさんあり、それぞれにちょうどいい暮らし方を選べるまちです。

2040年に向け、このポテンシャルを更に引き出し、住む人、働く人、学ぶ人、近隣に暮らす人たちまでもがワクワクできる、職住近接に暮らしの楽しさをプラスした生活の拠点となるような、“いいことふくらむ”まちづくりを進めます。

### なりたいまちの姿3

#### 誰もがホッとできるまち

国際化の進展に伴う外国人労働者の増加や、新たなテクノロジーを背景とした働き方の自由度の向上などによって、2040年の町田市は、より一層多様な人が集まるまちになっていることが見込まれます。

様々な境遇や考え方の人が暮らす中であっては、必要とする人が必要な支え合いの輪に参加できてこそ、地域のつながりの力が発揮されると考えられます。そしてそれは、自ら進んで入っていきたくなるような、あたたかい寛容に満ちたつながりであることが望まれます。

お互いを尊重し、それぞれがそれぞれにできることを行う、このことを大事にすれば、年齢や障がいの有無などに関わらず誰もが自分の役割や活躍の機会を得られる共生社会を形成することができるのではないのでしょうか。

また、多様な背景を持つ人たちが、自分たちの暮らす地域のことを自分たちで考え決めていくことができれば、これまでなかったような地域ごとの特色が生まれ、居心地がいいと感じられる地域の選択肢が増えることにもつながっていきます。

人と人がつながり、多様な価値を尊重し合える関係性の先には、誰もがホッとできる居場所を地域の中に見つけられている、町田市はそんなまちになることを目指します。

### まちづくりの方向性 3

人と人がつながりながら、多様な価値を尊重し合うことができる

私たちの暮らす社会は、子どもから高齢者まで、多くの方が支え合うことで成り立っており、2040年になってもそれは変わらないでしょう。誰もがかつては子どもであり、歳を取れば高齢者になります。支える側、支えられる側のどちらにもなり得ることを思えば、自然と支え合いができてきているような関係性がいつの時代も求められているといえます。

一方で、家族のかたちや友人との距離感、地域との付き合い方など、支え合いの土台となる人と人とのつながりは、時代と共に変化するものでもあるため、それらを受け入れ、みんながゆるやかにつながれることが、まちの魅力の一つとなります。

また、風水害や地震等の大規模災害が発生した際にも、助け合える仲間がいるということは、まちに暮らす人々にとって大きな安心となります。このような点からも、普段は意識していないけれど、いざという時にみんなとつながれるということは、非常に重要であると考えられます。

性別、年齢、国籍等の違いに加え、生き方や信条、住み方の違い、あるいは、地域と積極的に関わっている人、そうでない人など、町田市には様々な人が暮らしています。お互いを認め合い、地域とのつながり方を選びながら、それぞれの持てる力を発揮できる、そんな地域であれば、生涯住み続けたいと思える愛着が生まれるのではないのでしょうか。

さらに、多様な人たちが、多様な考え方の下、地域資源の使い方や安全・安心



への取り組みなど、自分たちで必要なことを考えて地域をつくり続けていくことができれば、お互いに学び合い、高め合うことで、地域に化学反応を起こせるとともに、まちへの誇りや責任を持つことにもつながると考えられます。

多様性を認め合うことが当たり前の時代にあっては、地域にも多様なあり方があって然るべきであり、そこから新たな価値が生まれてくるはずです。

2040年に向け、このように、温かい人と人とのつながりがあり、どこか懐かしいけど新しさも感じられるまちづくりを進めます。

### (3) 行政経営の姿と方向性

#### 行政経営の姿

#### みんなの“なりたい”がかなうまち

人口減少や人口構成の変化、価値観の多様化など、社会構造が大きく変化していく中、行政経営においても、これまでも増して多様な公共サービスを展開していくことが求められています。

また、地震、風水害等の自然災害や感染症の拡大などの危機に対しても、これまで乗り越えてきた経験をいかしながら、新たな発想で市民サービスを持続的に提供していく必要があります。

このため、市民、地域、事業者など様々な担い手と共にまちづくりに取り組むことで、これまでにない新たな価値を生み出し、市民一人ひとりのニーズに適したきめ細やかなサービスを提供していくことが、これからの行政経営にとって大切なことであると考えます。

そこで、町田市の持つ情報をオープン化し、町田市の特性や課題を示していくことで、様々な担い手が、その解決に向けて“投資したくなる”“関与したくなる”仕組みをつくりまします。

また、テクノロジーを活用し、公共サービスのスマート化を進めていくことで

快適で利便性の高いまちを実現していくとともに、町田市の持つ魅力と強みをいかした公共サービスを広く展開していきます。

2040年に向けて、多様な主体と共に、市民一人ひとりに最適な公共サービスを展開していくことで、市民の生活をより豊かなものとし、市民それぞれのなりたいをかなえる行政経営を目指します。

### 行政経営の方向性

多様な主体と共に、町田らしい公共サービスを展開していく

町田市の総人口は、今後、減少局面に移行していくとともに、団塊ジュニア世代が高齢者となる2040年頃に高齢者人口がピークを迎えることが見込まれています。

高齢者人口の増加は、医療・介護給付、生活支援等のニーズを高める一方で、人口減少は、日常生活や事業のために必要な担い手を確保することが難しくなるなど、公共サービスの需要と供給の両面において大きな変化をもたらします。

そこで、これまでの行政経営のあり方を改めて見直し、これらの変化に適応したものとデザインし直す必要があります。

また、AIやIoT（モノのインターネット）、ロボットなどテクノロジーの進化は目覚ましいものがあります。中でも、感染症の世界的拡大を受けたりモータ化の急速な進展は、人々の働き方に大きな変化をもたらしました。テクノロジーを駆使して様々な工夫を凝らし、これまでの窓口中心の公共サービスのあり方を見直すなど、新しい発展の基礎を築くことができれば、市民の生活を快適で利便性の高いものとしていくことが可能となります。加えて、IoTなどにより集約した様々な情報を分析することで市民ニーズを的確に捉え、必要な人に、必要なサービスが、必要な分だけ提供できるようになり、地域の課題に効果的に対応していくことが可能となります。

行政経営においても、このようなテクノロジーの取り込みを強力に推進し、市民に上質なサービスを提供していくことが求められていきます。

さらに、市民のライフスタイルや価値観は、今後も変化・多様化していくことが予想されます。あらゆる公共サービスを行政だけで提供していくのではなく市民、地域、事業者など、まちづくりに関わる多様な主体との連携を深め、これまでにない多様なサービスを生み出すことができれば、市民一人ひとりのニーズに適したきめ細やかなサービスを提供していくことが可能となります。

そのためには、これまで以上にまちづくりに関わる多様な主体が連携し合う仕組みを作り、人や事業者の多彩な知恵と行動を結集して地域課題に対応していくことが重要だと考えます。

多様な主体と共に、町田市の持つ魅力や強みをいかしたサービスを持続的且つ安定的に提供していくとともに、社会経済環境の変化を的確に捉え、あらゆる事態においても迅速かつ柔軟に立ち向う行政経営を進めます。

#### (4) 将来人口

2040年における、町田市の将来人口を40万人と想定し、「2040年なりたい未来」の実現に向け、皆さんと一緒にまちづくりを進めます。

### 3 基本計画

#### (1) 計画策定の基本的な考え方

「まちづくり基本目標」と「経営基本方針」は、「2040年なりたい未来」で掲げた、なりたいまちの姿と行政経営の姿を実現させるため、まちづくりの方向性と行政経営の方向性に沿って、何を目標にどのようにまちづくりを進めるかを体系的に示す、市政運営の基本となる計画で、以下のような点を特徴として策定しています。

### ①ライフステージを意識した政策体系

「まちづくり基本目標」については、2040年を見据え、多様なライフスタイルとこれからの人の生き方を思い、誰もが夢を持ちその夢を実現できる、一人ひとりが輝けるまちをつくるため、ライフステージを意識した政策体系とします。

### ②行政経営の手法と資源の明確化

「経営基本方針」については、「まちづくり基本目標」を実現するために必要な行政経営の手法と資源を明確に示し、市役所の能力を高めるとともに、市民一人ひとりのニーズに適したサービスを生み出していきます。

## (2) 計画期間と想定人口

計画期間は2022年度から2031年度までの10年間とし、2031年度における想定人口を41万5千人とします。

## (3) なりたいまちの姿の実現に向けた課題

### ①希望出生率の実現

町田市の希望出生率は1.91であるのに対して、合計特殊出生率は1.24前後で推移しており、希望がかなっていない状態であると言えます。人口の増加減少に関わらず、子育ての希望がかなうまちをつくること、子どもと共に成長し、幸せを感じることができるまちに求められています。

### ②年少人口転入超過数の維持

町田市は近年、年少人口の転入超過数が上位に位置しています。子ども施策だけに関わらず、これまでのまちづくりが総合的に評価された結果と言えます。町田市の良さを更に伸ばすことにつながるため、今後も年少人口の転入超

過が続くことが求められています。

### ③ 20代・30代の転入促進

町田市は、近隣に大学や専門学校等が多数あり、学生の年代である15～19歳が大きく転入超過している一方、卒業から就職期の年代である20代は大きく転出超過になっています。

これらの年代は今後の子育て世帯につながる層であるため、就職を機に自立する20代から30代にかけての転入促進が求められています。

### ④ 45～64歳への退職後を見据えた生き方の支援

2040年に団塊ジュニアが65歳になり、2045年には65歳以上人口がピークに達します。この世代は、現在の人口のボリュームゾーンでもあるため、2040年を見据え、次の生き方を学ぶ機会や場の提供をすることが求められています。

### ⑤ 全世代での自己実現機会の創出

人口減少超高齢社会においては、高齢者を、支援の対象としてだけでなく活躍する世代と捉え、充実した生活を送っていただくことが健康寿命の延伸にもつながります。

また、20代・30代の中では、ミレニアル世代と呼ばれる、お金を得る事だけを目標としない、何かに貢献したいという生き方を望む人たちも現れています。

こうした利他的な活動を選択する層に対して活躍の場を提供することが求められています。

## (4) まちづくり基本目標

## 政策1 赤ちゃんに選ばれるまちになる

赤ちゃん自身が暮らす場所を選ぶことはできませんが、その親や保護者となる人たちが安心して子どもを産み育てていけると思えることが、つまりは赤ちゃんに選ばれていると言えます。そんな場所として町田市が選ばれ続けていくよう、また、多くの方の子育ての希望がかなえられるよう、魅力ある子育て環境の整備や、育児と仕事の両立支援などを行っていきます。

### 政策実現によってなりたい姿

- ・子育て世帯をはじめ、周囲や地域の人たちみんなですく子育てができています。

## 施策1-1 魅力ある子育て環境をつくる

### 施策実現によってなりたい姿

- ・子育て世帯の誰もが必要な情報を把握し、支援が必要な時に支援を受け、相談が必要な時に相談を受けられる環境になっています。
- ・子ども・子育ての支援が切れ目なく行われている環境になっています。

## 施策1-2 多様な保育サービスを提供する

### 施策実現によってなりたい姿

- ・子育てと仕事の両立ができ、ワークライフバランスが保てることで、充実した子育てや仕事を実現しています。
- ・保育を必要としている時に必要な保育サービスを利用できる環境を実現しています。

## 政策2 未来を生きる力を育み合うまちになる

子どもたちは未来に向かって、やりたいことやなりたいものを選び取っていき

ます。そして、その選択肢を増やせるよう支えていくことが市の責務です。町田市で育った子どもたちが様々な分野で活躍できるよう、また、地域全体で成長していくことができるよう、子どもたちの学ぶ意欲を育てる取り組みや、教育環境の充実などを図っていきます。

政策実現によってなりたい姿

- ・大人と子どもが共に成長し、まちづくりに取り組んでいます。

施策2-1 子どもが自分らしく育つ場を提供する

施策実現によってなりたい姿

- ・まちづくりを始めとする行政のあらゆる活動に子どもが意見でき、大人と共にまちづくりを実現するまちになっています。
- ・家庭の事情に関係なく、子どもが「活動の場」、「生活の場」、「豊かに過ごせる場」を選択できるまちになっています。

施策2-2 学ぶ意欲を育てる

施策実現によってなりたい姿

- ・次代を担う町田市の子どもたちが、グローバル化やICTなどの技術革新が急速に進み、予測困難なこれからの社会において、夢や志を持ち、自ら考え、目標に向かってたくましく生きることができるようになります。

施策2-3 教育環境を充実させる

施策実現によってなりたい姿

- ・質の高い教育環境の下で、子どもたち一人ひとりの能力・可能性が育まれています。
- ・子どもがいつでもどこでも誰でもそれぞれに適した方法・場所で教育を受け

ることができます。

#### 施策2-4 地域の教育力を高める

施策実現によってなりたい姿

- ・地域人材の経験やスキルをいかし、子どもたちが未来を生きる力を育むと同時に地域人材の活躍の場を作り出す双方向の「連携・協働」型の活動が充実しています。

#### 政策3 自分らしい場所・時間を持てるまちになる

都市と自然が共存する町田市は、それぞれの思い描くライフスタイルを実現できるまちです。仕事でも遊びでも、自分らしくいられる場所や時間を持てることは、暮らしの質を向上させます。働き盛りの世代をはじめ、町田市で活動する人たちが充実した日々を過ごせるよう、多様な働き方に適した環境づくりや、地域資源の魅力向上・情報発信などを行っていきます。

政策実現によってなりたい姿

- ・様々な活動が生まれ、活気と魅力があふれる町田市のことを誰もが好きになっています。

#### 施策3-1 ビジネスしやすく、働きやすい環境をつくる

施策実現によってなりたい姿

- ・多様な働き方が実現できるまちとして、多くの人に選ばれるとともに、ビジネスに適した環境として、多くの事業者からも選ばれるまちになっています。
- ・立ち上げる・広げる・つなぐチャレンジの支援を通じて、起業・創業がしやすい風土が根付き、事業から新しい価値が生み出されるとともに、優れた技術・ノウハウが次世代に受け継がれるまちになっています。



### 施策3-2 町田ならではの地域資源をいかす

#### 施策実現によってなりたい姿

- ・子育て・教育や経済・観光、スポーツ・生涯学習、地域活動等のまちの魅力が、「町田ならではの地域資源」として認識されています。
- ・メディアや口コミ、WEB（SNS）等を通して発信されることにより、市内の方の交流が生まれ、町田に対する市民の誇り・愛着及び、市外の方の関心・憧れが育まれています。

### 政策4 いくつになっても自分の楽しみが見つかるまちになる

人生100年時代において、中年期はまだ人生の折り返し地点を過ぎたあたりです。いまのキャリアを成熟させるとともに、現段階からセカンドキャリアを見据えた学びや活動を始めることで、より充実した人生設計が可能となります。いくつになっても、打ち込めるものが見つけられるよう、生涯学習の支援や、スポーツ環境の充実などを図っていきます。

#### 政策実現によってなりたい姿

- ・仕事や家庭からはなれても、地域で学習やスポーツに触れる機会があり、暮らしを豊かにできる居場所があります。

### 施策4-1 生涯にわたる学習の「しやすい」を支援する

#### 施策実現によってなりたい姿

- ・いつでもどこでも学習しやすい環境が整い、学びの機会を逃さないようになっています。
- ・学びの成果を発信しやすく、受信しやすいようになっています。
- ・学習資源のデジタル化が進むことにより、学びにアクセスしやすい環境になっています。

#### 施策4-2 スポーツへの参加機会を充実させる

##### 施策実現によってなりたい姿

- ・「スポーツで人とまちが一つになる」を実現しています。
- ・市民誰もがスポーツを楽しむことができ、スポーツを通じて様々な主体が連携して、まちの賑わいと魅力が生まれ、市民の愛着・誇りが高まっています。

#### 政策5 人生の豊かさを実感できるまちになる

「団塊ジュニア世代」が高齢者となる2040年に向かって高齢化は更に進み、高齢者への支援や介護に関するニーズは一層の増加と多様化が見込まれます。高齢になっても人生の豊かさを感じながら地域で暮らすことができるよう、いきいきと暮らせる環境づくりや、高齢者を地域全体で支えていく体制づくりなどを行っています。

##### 政策実現によってなりたい姿

- ・地域が「支え手」「受け手」という関係を超えて支えあい、高齢者が健やかで自分らしさを感じることができています。

#### 施策5-1 高齢者が地域でいきいきと暮らせる環境をつくる

##### 施策実現によってなりたい姿

- ・高齢者が住み慣れた地域で、地域の一員としていきいきと暮らすことができます。

#### 施策5-2 高齢者を地域で支える体制をつくる

##### 施策実現によってなりたい姿

- ・支援が必要になっても、支え合いにより住み慣れた地域で生活することがで

きます。

- ・よりよい介護サービスを安心して利用し続けることができます。

## 政策6 つながり力を力にするまちになる

私たちの生活は、地域に暮らす様々な人との関わりの上に成り立っています。その中で活躍する人や団体を支えていくことが、特色ある地域づくりの一助となり、また、みんなで実現を目指す目標の達成に寄与します。地域におけるつながり力を力にできるよう、支え合える基盤をつくとともに、その基盤に基づく持続可能な生活環境づくりなどを行っていきます。

### 政策実現によってなりたい姿

- ・「自分ゴト」としての活動が市内の各地域で生まれ、その成果をあらゆる分野に活用できています。

## 施策6-1 つながり、支え合える基盤をつくる

### 施策実現によってなりたい姿

- ・地域や人との多様な関わり方がある中、「自分ゴト」として地域活動への参加がしやすい状態になっています。個人の「やりたいこと」「できること」と地域のニーズとのマッチングが進み、より多くのつながり創出されています。
- ・市民、事業者、行政等が一体となって地域課題の解決に取り組むことで、新たなアイデアや活力が創出されています。
- ・地域自らが地域の課題を把握し、支援につなげることができています。

## 施策6-2 みんなで将来に受け継ぐ持続可能な環境をつくる

### 施策実現によってなりたい姿

- ・市民、事業者、市が協力して、地球温暖化対策や、生物多様性の保全に取り組み、次の世代が暮らしやすい環境が受け継がれています。
- ・市民、事業者、市が協力して、ごみの発生抑制、適正処理、リサイクルを行っています。

#### 政策7 ありのまま自分を表現できるまちになる

年齢、性別、国籍の違いや障がいの有無などに加え、いろいろな考え方の人たちが暮らしているということが、町田市未来を考える上での前提です。お互いを尊重し、認め合うことで、みんながありのままの自分を表現できるよう、一人ひとりの個性を大切にす地域づくりや、文化芸術に親しめる環境・機会の充実などを図っていきます。

#### 政策実現によってなりたい姿

- ・誰もが生きづらさから解放され、いろいろなかたちで自分の思いや考えを発することができています。

#### 施策7-1 一人ひとりの個性を大切にす地域をつくる

##### 施策実現によってなりたい姿

- ・誰もが安心して快適に住み続けることができる地域社会を実現します。
- ・必要な人には、必要となる配慮や支援が届けられる環境が整っています。
- ・一人ひとりの人権を尊重し認め合い、その人の個性と能力を十分に発揮することで、その人らしくいきいきと生きることができます。

#### 施策7-2 文化芸術に親しめる環境・機会を充実させる

##### 施策実現によってなりたい姿

- ・「いつでも、どこでも、だれでも、あらゆる文化芸術を楽しむまち」を実現

しています。

## 政策 8 思わず出歩きたくなるまちになる

便利で快適な交通や、多様な住まい・公共空間、身近に触れられるみどり、このようなものを整えていくことでまちは成長し、私たちの暮らしは潤いあるものとなります。これから先、町田市が思わず出歩きたくなるまちでいられるよう、気軽に出かけてつながれる環境づくりや、健やかで心地よい時間を過ごせる環境づくりなどを行っていきます。

### 政策実現によってなりたい姿

- ・人々の活発な交流が生まれ、まちが成長し続けています。

## 施策 8-1 気軽に出かけてつながれる環境をつくる

### 施策実現によってなりたい姿

- ・多様な交通手段の中から自分にあった方法を選んで、目的地まで快適に移動が出来ます。多くの方が市内への外出を楽しんでいると感じており、まちなかで活動する人が増えています。
- ・日常生活に必要なモノ・サービスに簡単にアクセス出来る環境が整っています。多くの方が市内で活動する便利さや快適さを感じており、様々な活動の場として選ばれています。

## 施策 8-2 ライフスタイルに合わせて自分らしくまちを使えるようにする

### 施策実現によってなりたい姿

- ・拠点駅の近くは「働く」「遊ぶ」「集う」「住む」など多様な使い方が出来るとともに、歩く目的に溢れています。楽しい時間を過ごすことができ、新しいことが生まれ、人々の出会いや活動のつながりが広がり続けるようなまち

が形成されています。

- ・多様な選択肢から自分にあった住まいや働き方が選べます。市内だけでなく市外からもライフステージに合わせた住み替えが進み、多世代交流・共生のまちが形成されています。
- ・身近な公園や農地等のオープンスペースを柔軟に使える環境と、多様な活動を推進する仕組みが整っています。多くの人が身近なオープンスペースで思い思いに活動し、日常的にまちを使うことで地域への愛着が醸成されています。

### 施策 8-3 健やかで心地よい時間を過ごせる環境をつくる

施策実現によってなりたい姿

- ・地域の特色に合わせたみどりの空間づくりにより、多彩で豊富なみどりが「まち」を象徴する魅力の一つに育っています。多くの人がみどりの中で日常的に心地よい時間を過ごし、みどりを馴染み深い場所と感じています。
- ・緑地（公園、農地、里山等）を活用した地域住民の能動的な活動が促され、地域内資源の循環が促進されます。
- ・都市農地（生産緑地）の保全と利活用が図られ、農地の多面的機能が発揮されています。

### 政策 9 みんなが安心できる強いまちになる

市民の命や健康を守ることは、市の最も重要な責務の一つです。安心できる暮らしがあってこそ、そのまちの未来に思いをはせることができます。どんな災害や疫病にも負けない、とにかく強いまち、そんなまちになれるよう、ひと・まちを災害に強くするとともに、地域の安全を守る、そして市民の健康を守るための取り組みなどを行っていきます。

政策実現によってなりたい姿

- ・大規模災害などがあっても、みんなが協力し合い、乗り越えようとする連帯感が生まれています。

施策 9－1 ひと・まちを災害に強くする

政策実現によってなりたい姿

- ・市民一人ひとりが、災害に対して備えるとともに、地域における防災活動に積極的に参加することで、地域一丸となって災害に対応する体制が整っています。また、道路などの各種インフラが整備され、災害復旧時に有効活用されます。

施策 9－2 地域の安全を守る

政策実現によってなりたい姿

- ・町田市で暮らす人が安全に生活でき、町田市を訪れる人が安心して訪れることができます。

施策 9－3 市民の健康を守る

政策実現によってなりたい姿

- ・心や体の健康が脅かされる危機が発生した時に、市、市民、関係機関等が相互に理解、協力をして健康を守れるようになっています。